

日産車体株式会社 個人投資家向け会社説明資料

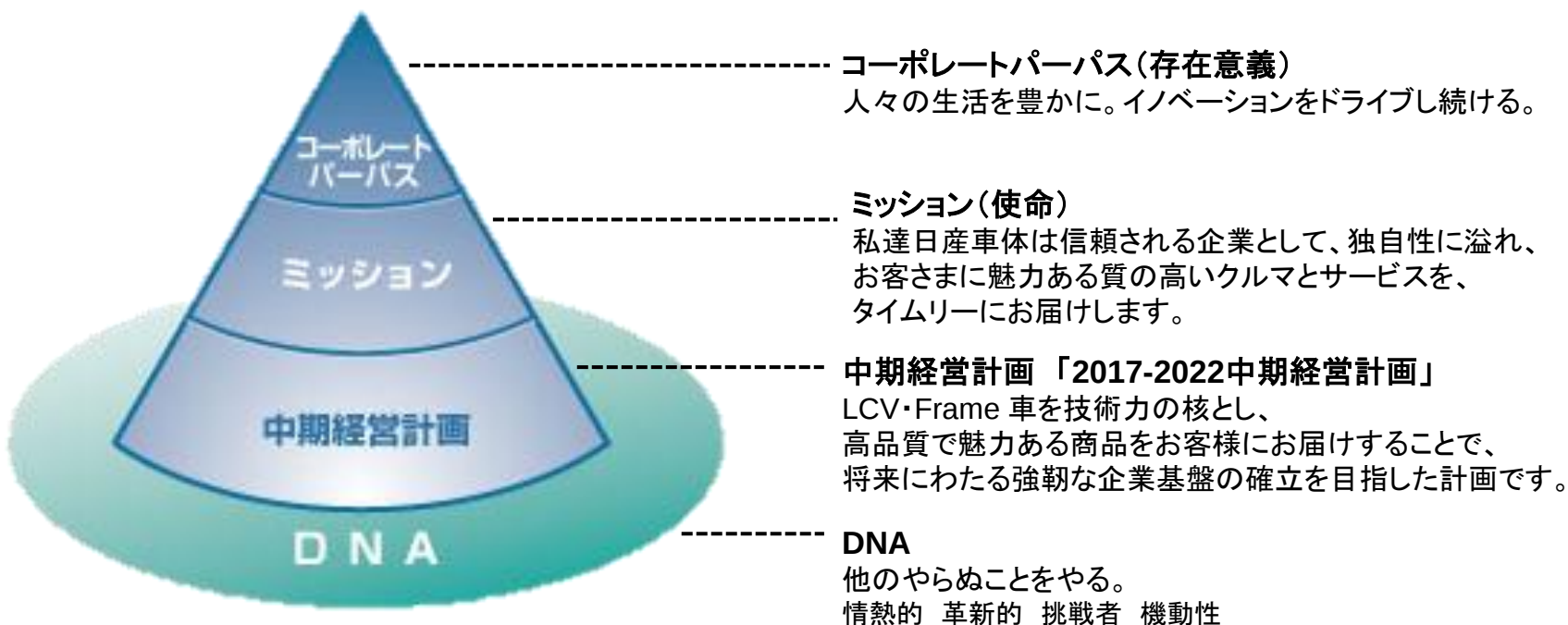


2023年2月

グループのご紹介

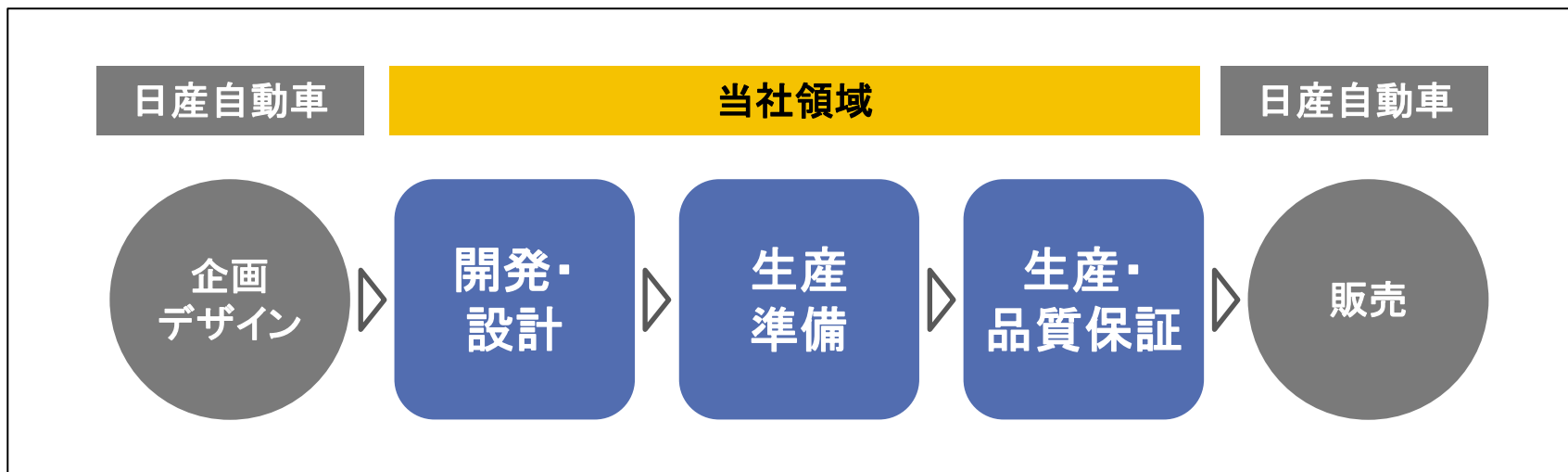
コーポレートパーパス・ミッション等

日産車体は、「人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける。」というコーポレートパーパス(存在意義)及び「私達日産車体は信頼される企業として、独自性に溢れ、お客さまに魅力ある質の高いクルマとサービスを、タイムリーにお届けします。」というミッション(使命)に基づき、「LCV・Frame 車を技術力の核とし、高品質で魅力ある商品をお客さまにお届けすることで、将来にわたる強靱な企業基盤を確立する」を基本方針とした、2017-2022中期経営計画に取り組んでいます。



Outline

日産車体は、
「LCV・フレーム車」を中心とした開発から生産
までを担う日産グループの完成車メーカーです



LCV: Light Commercial Vehicleの略。小型商用車

フレーム車:トラックやバスに採用される頑丈な梯子フレームにパワートレーンなど走行機能搭載し、その上にキャビンを搭載する構造の車。当社製品:大型SUVのアルマーダ、パトロール、QX80、小型トラックのパトロールピックアップ

日産車体グループ

湘南工場と日産車体九州の2つの生産拠点が主軸です

日産車体(株)

日産車体九州(株)

設立

1949年

2007年

事業内容

各種自動車の開発から
品質保証まで

自動車および
その部分品の製造・販売

従業員数

1,730名

1,113名

生産拠点

神奈川県平塚市

福岡県苅田町

(2022年3月31日現在)

湘南工場



日産車体九州工場



グループ会社

日産車体マニュファクチャリング株式会社

- ▶ 自動車部品の製造

日産車体エンジニアリング株式会社

- ▶ 生産設備、動力設備の企画・設計・製作・施工
- ▶ プレス金型の設計
- ▶ 生産設備、動力設備の維持管理
- ▶ 工場内物流サービス業務
- ▶ 物流機器・リチウムイオン電池関連製品の製造・販売

株式会社 オートワークス京都

- ▶ 各種自動車の車体製造、特別架装、整備業

日産車体コンピュータサービス株式会社

- ▶ アプリケーションシステム開発
- ▶ システム保守・運用

株式会社 プロスタッフ

- ▶ 一般労働者派遣事業
- ▶ 有料職業紹介事業
- ▶ アウトソーシング

沿革

年 月	社 歴
2019年	7月パトロール(Y62)2020モデル生産開始
2018年	パラメディック(E26)発表
2016年	6月、日産車体九州で北米向け大型SUVの「新型アルマーダ」生産開始
2014年	3月、新本社を第2地区に竣工・湘南再編完了
2012年	湘南工場第1地区での車両生産を終了、湘南工場第4地区での車両生産を第2地区へ集約、湘南工場の車両生産体制の再編を完了
2010年	日産車体九州稼働開始
2007年	子会社「日産車体九州株式会社」設立／生産累計1,500万台達成
1992年	生産累計1,000万台達成
1951年	日産自動車(株)と提携
1949年	当社前身 新日国工業(株)設立

▶ INFINITI



インフィニティ QX80

▶ LCV



NV200 NY市 タクシー提案モデル

▶ ミニバン



▶ フェアレディZ



グループのご紹介

主な生産車

湘南工場



NV200
VANETTE
NV200 バネット



AD
AD



PATROL
パトロール：Y61



PATROL PICKUP
パトロール ピックアップ



QX80
QX80



PATROL
パトロール：Y62



ARMADA
アルマーダ



ELGRAND
エルグランド



CARAVAN
キャラバン

日産車体九州

オートワークス京都



救急・医療関係車両



消防関係車両



幼稚園バス



公共応急作業車両



公共応急作業車両

※ 株式会社オートワークス京都は、パラメディック(高規格救急車)など救急・医療関係車両、消防関係車両、幼稚園バス、公共応急作業車両など働くクルマの架装を行っている日産車体株式会社のグループ会社です。

特長

完成車メーカーとしてのDNAを活かした、 多くの特長を持っています

湘南工場

LCVを中心とした多車種少量生産の
一大拠点



▶ モノコック車



▶ フレーム車

日産車体九州

厳しい品質基準をクリアし、日産のラグジュアリーブ
ランドである「INFINITI」の生産を許されている工場



▶ ローラーヘミングによるエンジンフードの生産



▶ 新塗装技術

特装車

グループ内での一貫生産により、高品
質な特別仕様車をスピーディに提供



2022年度第3四半期 連結決算概況

<累計>

決算サマリー

当社グループを取り巻く環境は、前年同期と比べ生産活動が大幅に回復したものの、引き続き半導体不足に起因する一部の部品供給問題の影響や材料及びエネルギー価格の高騰等、先行き不透明な状況を注視する必要がある。売上台数が伸びた結果、増収・増益となった。

売上台数 前年同期と比べ26.8%増加の100,590台

売上高 「アルマーダ」や「パトロール」等の乗用車の売上が伸びた結果、732億円増加の2,187億円

営業損益 売上台数の増加等により63億円増加の15億円

経常損益 64億円増加の20億円

親会社株主に帰属する四半期純損益 リコール関連費用戻入額の特別利益計上等により、47億円増加の16億円

2022年度 第3四半期 決算 <累計>

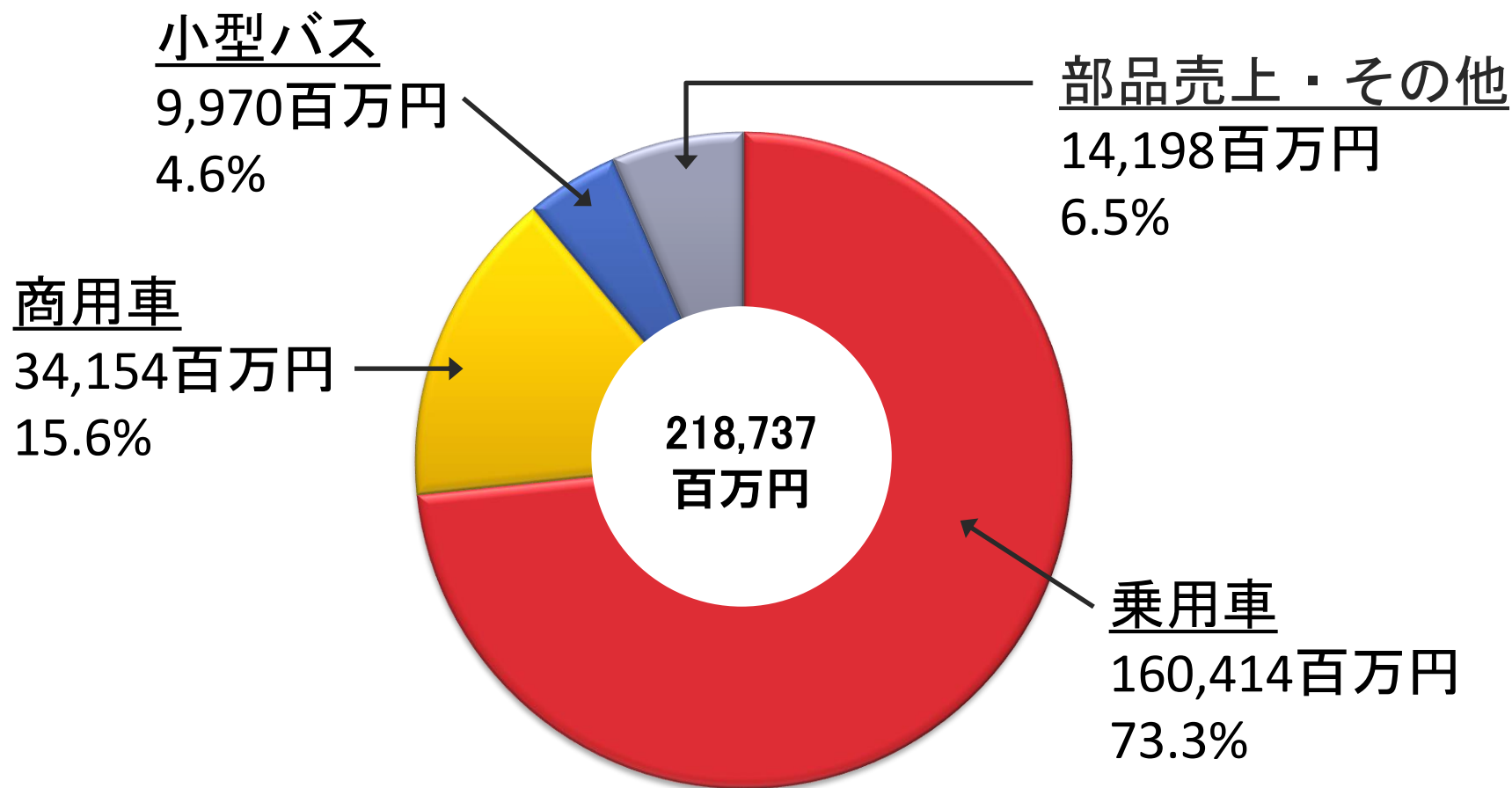
業績ハイライト

単位:百万円

	2021年度 第3四半期 (2021/4~12)	2022年度 第3四半期 (2022/4~12)	増減額(率)		通期計画
売上高	145,451	218,737	73,286	50.4%	309,600
営業損益	▲ 4,828	1,537	6,365	—	3,800
経常損益	▲ 4,375	2,090	6,465	—	4,500
親会社株主に帰属 する四半期純損益	▲ 3,126	1,669	4,795	—	3,100

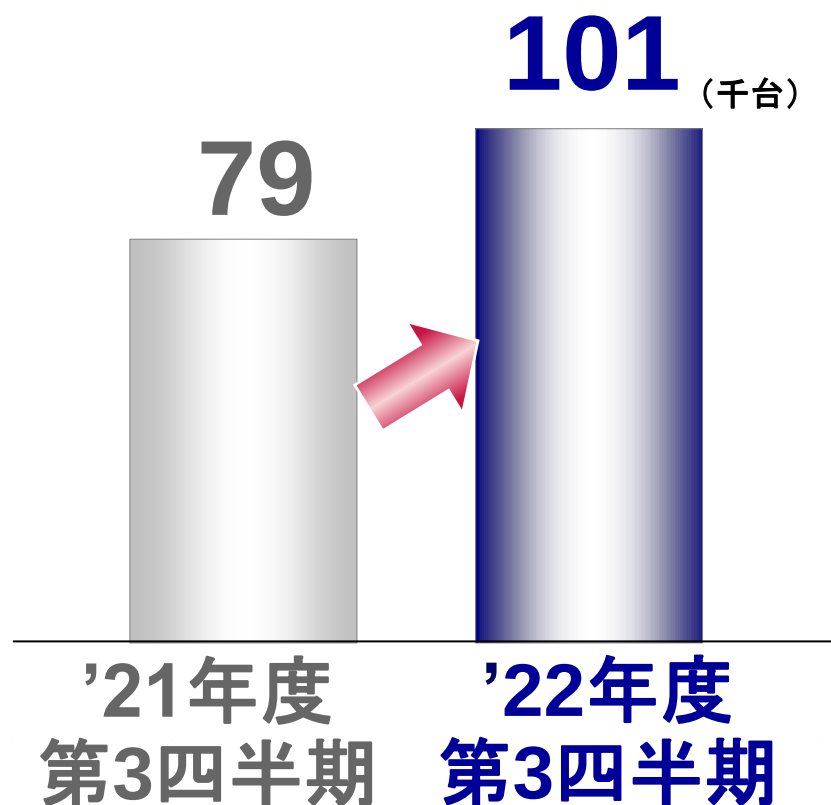
(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、当該会計基準等の適用により大きな影響の生じる売上高は、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

品目別売上高構成比



売上台数

前年同期と比べ26.8%増加の100,590台

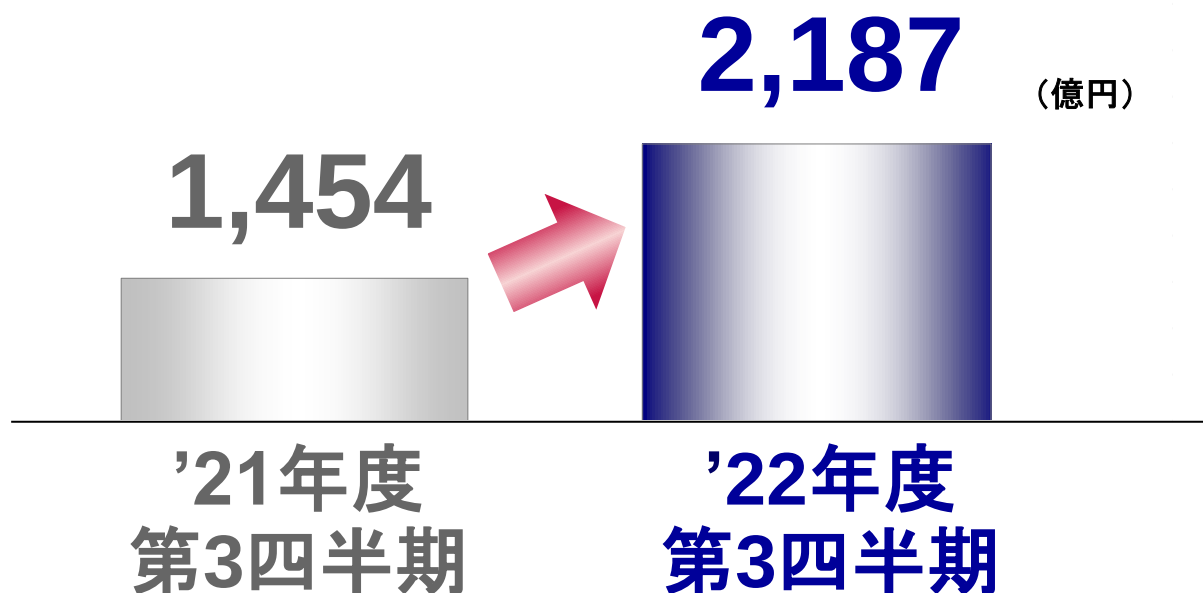


(千台)

	前期実績	当期実績	増減率
乗用車	37	63	67.7%
商用車	37	30	▲17.7%
小型バス	5	8	47.9%
合計	79	101	26.8%

売上高

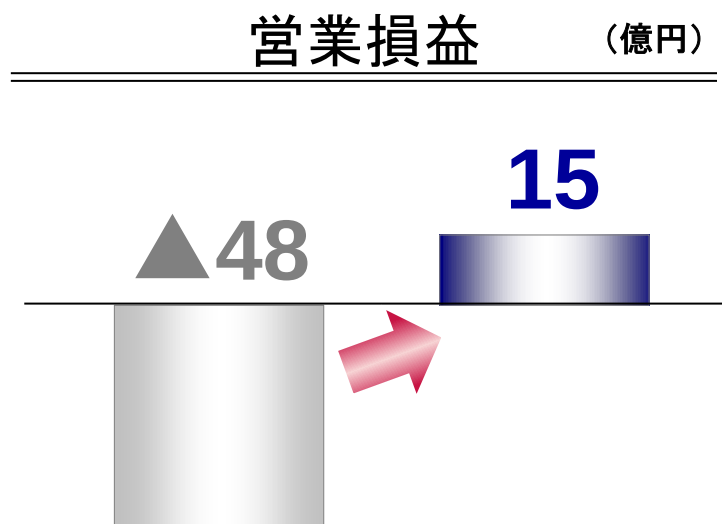
「アルマーダ」や「パトロール」等の乗用車の売上が伸びた結果、732億円増加の2,187億円



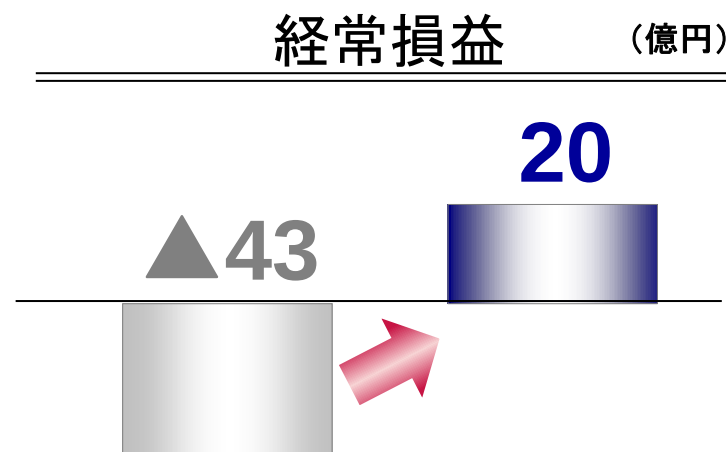
営業損益／経常損益

営業損益は売上台数の増加等により63億円増加の15億円

経常損益は64億円増加の20億円



'21年度 第3四半期 '22年度 第3四半期

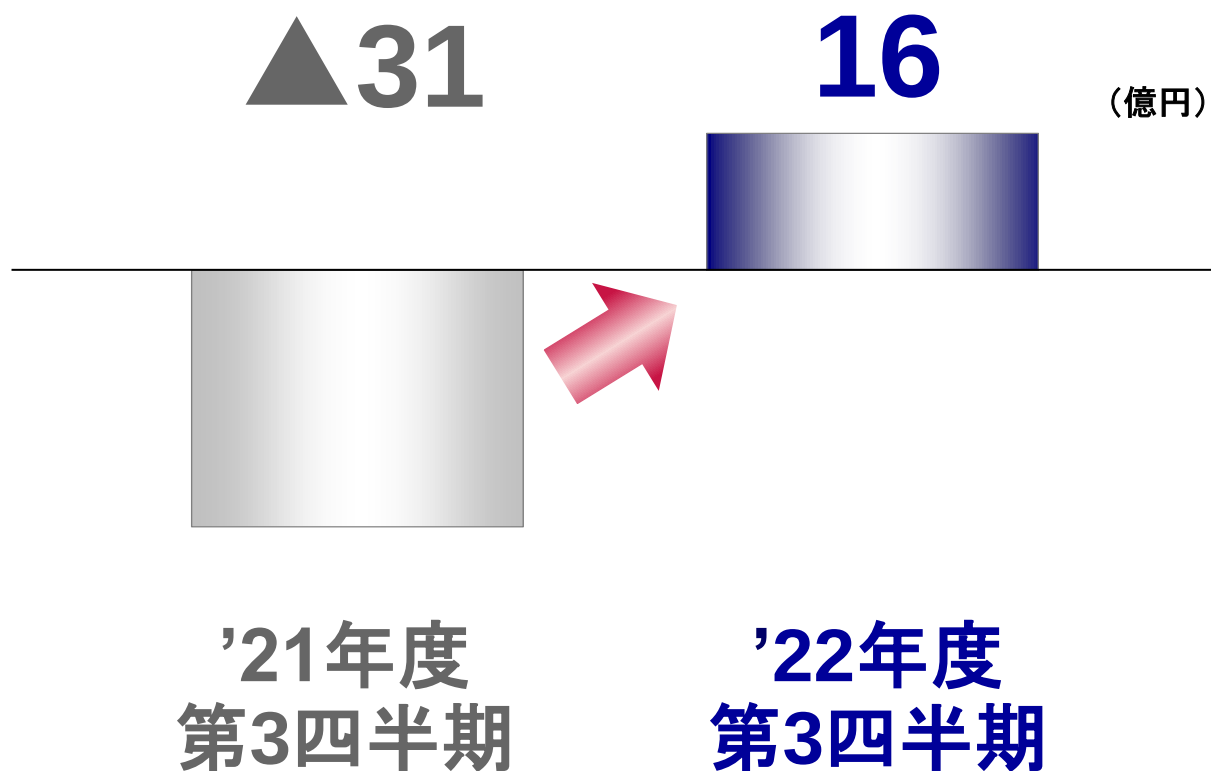


'21年度 第3四半期 '22年度 第3四半期

2022年度 第3四半期 決算 <累計>

親会社株主に帰属する四半期純損益

リコール関連費用戻入額の特別利益計上等により、47億円増加の16億円



2022年度 1株当たり配当金

株主還元

安定配当を継続する基本方針のもと、年間13円を予定

